

吉野復興大臣ぶら下がり会見録

(平成30年2月5日(月) 17:45～17:55 於) 丸ビルホール)

1. 発言要旨

今日は、「新しい東北」のイベントで、会社が提案する東北のモデルコースの中から、100人の外国の方々が投票をして、東北を知ってもらい、見てもらい、そして、東北を食べてもらいたいという素晴らしいコースを選んでいただきました。

私はそのプレゼンに参加できなくて、大変残念な思いをしているんですけど、是非次回は参加して、皆さんのプレゼンを聞いてみたいというふうに思います。

このことによって、風評被害払拭もできるし、東北をきちんと理解してもらい、見てもいいし、素晴らしい企画だな、こう自画自賛しているところです。

グランプリを取った方、準グランプリを取った方、また審査員特別賞を取った方、3つの会社が取ったわけですけど、それぞれに切り口がみんな別で、素晴らしい東北を紹介してくれる企画だな、このように思います。

これからも復興庁として頑張ってもらいますので、マスコミの皆様方も今日のこのイベントの成果を発表していただいて、多くの方々が東北を訪れてくれるようお願いを申し上げて、私の記者会見、以上とさせていただきます。

ありがとうございます。

2. 質疑応答

(問) 2年目の事業ということなんですけれども、このインバウンドで東北を復興させるというのは、いよいよ意味合いとして大きくなっているんですか。つまり、ほかのいろんな事業もやり方があるかとは思っているんですけれども、やはりインバウンド、外国の方を呼んで知ってもらいたいということの意味合いというのがあって、それが2年目、3年目と、いよいよ大きくなっているという印象ですか。

(答) (外国人宿泊者数で見ると、) 震災前の平成22年と比べて、去年は東北全体で130%くらいだったんです。そして、日本の平均が250%くらいで、ずっと下回っていたんですけど、直近の平成29年にはなんと青森は震災前の400%くらいになっているんです。このようにやっぱりインバウンドを、東北に来ていただくというこの運動が、そういう形で現れているなというふうに思います。

(問) これが実を結んだ成果だと。

(答) ええ。福島県はやっと直近で110%です。今まで80%台しかなかったんですけど、震災前を超えたという、これは外国の方々だけなんですけど、そういう意味の成果が着実に上がっているな、こんな思いです。

(問) 挨拶でもおっしゃっていましたが、被災地に足を運んで風評被害払拭にというお話もあったんですけど、今日のモデル事業でやっている中では、なかなか被災地に直接足を運んで、現場を見てもらうという発表は、ちょっと大臣はお聞きになっていないのであれなんですけど、なかなかそこまでの取組というのは難しいようなんですけど、その辺はどうですか。

(答) 例えば、宮城県の丸森を回るコースなどは被災地ですし、東北で被災を受けなかったところの方が少ないんで、そういう意味ではいろんな酒蔵を回るとかなんかも被災を経験した方々がやっぱりやっていますので、そういう意味での復興というところもあるのかなというふうに思います。

7年が経ち、完全に復活した、また、7年前以上のところもある、それが復興ですので、そういうところも見てもらえる。復興のなった姿を見てもらえるというのも、あると思います。

(問) いわゆる沿岸部の津波被災地とか、福島県のそういう原発事故の被害を受けている地域とか、そういうところばかりではないと。

(答) そうです。私の仕事は東北の復興ですから、地震被害、津波被害、原発被害、そして、避難しているところは何でもなくても、自分の町は何でもなくても、避難者を受け入れてくれている地域、山形県の米沢市なんかはそうです。

でも、そこは大きな意味では、復興にものすごく貢献していただいていますので、東北全体で被災を受けた方々の強力なる復興の原動力になっている。こういうふうに思います。

(問) 復興庁として、観光をどのように後押ししていくかというのを、今一度お聞かせください。

(答) 復興庁としては、復興をした姿を多くの方々に来てもらって、特に、福島県の場合は風評被害払拭もあるんですけど、一番今日の目的は、復興した姿を、東北6県でどう頑張っているかという、そういう姿を見てもらいたい、こんなことで考えています。

(問) 今後の話なんですけれども、より多くの外国の方に来てもらうために、残っている課題としては何だと思われませんか。東北の地域ではどういった課題がいまだに残っていますか。

(答) 福島県ではやっぱり原発災害、原発事故による風評被害ですね。この前、台湾のテレビ局が来たんです。まだ福島県は放射能でいっぱい汚れている地域だなというようなイメージで来られたんですけど、やっぱり現場に入ってもらって、もう大丈夫なんだよ、

もう世界の主要都市と同じ今、放射線レベルなんだよ。例えば、私の地元いわき市は、 $0.06 \mu\text{Sv/h}$ なんです。北京もニューヨークもだいたい同じなんです。そういうことをきちんと、来ないと分からないでしょう。来ていただいて、農産物を食べていただいて、初めて体験することによって、ああ、大丈夫なんだということを、自信を持って台湾に戻られたら、テレビできちんと言えると、自分が体験しないと側聞では、聞いたことだけでは自信を持って言えないでしょう。そういう意味でも、この間来ていただいて本当によかったなというふうに思っています。

(問) じゃ、やはりその風評被害が、やはり結構課題だと。

(答) 特に、福島県はですね。

(問) 影響もしているという。

(答) ええ。

(問) それは、言い換えると、情報不足にもつながっていると思われていますか。

(答) そうですね。ですから、平成30年度は、今度の予算が通れば、4月からなんですけど、放射線に対する理解を深めるCMを流したり、SNS、インターネットで情報を流したり、放射線の正しい理解をする、復興庁の予算で事業が始まります。

(問) 自然と文化、やっぱりコミュニティーが大切で、だから、今からのサステナビリティという観光エコリズムとか、ゼロ・ウェイストとかの考慮性がありますか。

(答) あります。全くそのとおりです。東北には、双葉郡には、まだ帰れない町があるんですけど、そこで毎年お祭りやるんです。私の地元では、各コミュニティーが5つくらい集まって、町をついているんですけど、各コミュニティーで獅子舞、神楽踊りといって、そのお面、頭(かしら)っていうんですけど、お面ですね。お面が全部違うんです。それぞれの小さなコミュニティーによって、踊りも違うんです。

東北地方には、こういう文化がたくさんあります。そういう文化もきちんと見てもらいたいなというふうに思います。全くおっしゃるとおり、エコリズム、サステナビリティをどうツアーに取り入れていくかというのが大事な視点だと思います。ありがとうございました。

(以 上)